



連携団体

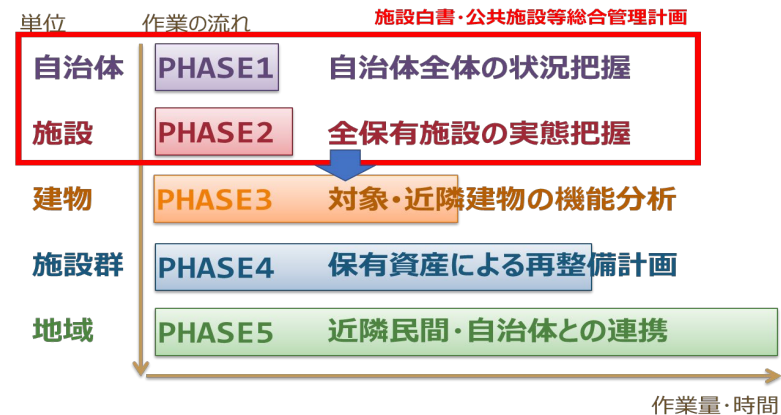
大和高田市、香芝市、葛城市、上牧町、王寺町、河合町

(1)取組の背景、経緯

○3市4町は、公共施設の維持管理及び運営経費の削減について、効果的・効率的な施設管理という観点から共通の課題を抱えており、住民の通勤や通学、地域活動、経済活動などを一にする圏域として、これまで奈良県主導で、広域連携に関する課題抽出や共同整備の可能性検討を行うワーキンググループを開催してきた。
 ○令和2年3月25日に「中和・西和広域連携検討会」を立ち上げ、各自治体の施設における相互利用の可否等について検討した結果、**体育施設・文化施設等の相互利用等**の可能性について検討していくこととなった。そこで本取組では、これを実施していくために必要となる基本情報の整理、利用状況の把握及び課題解決に向けた具体的なプランの調査・研究を行うこととした。

(2)取組の内容

- 対象施設の基礎資料等調査
 - ・対象施設の現状把握、統一的な施設情報の収集・分析
 - ・対象施設評価(コスト及び立地特性等の把握)、自治体間比較
 - ・相互利用時の課題及び利用者費用負担等の整理
- 対象施設利用者アンケート調査等
 - ・対象施設利用者属性把握、調査及びアンケート
- 対象施設の広域利用検討
 - ・利用状況、イベント情報等を広域で共有する仕組みの検討
 - ・予約及び管理システムの導入可能性の検討
 - ・利用者利便性向上のための公共交通の改善検討
 - ・対象施設の集約化・統廃合・跡地利用の検討
- その他
 - ・広域連携による費用縮減効果・災害対応の確認
 - ・広域連携の進め方マニュアル、管理・予約システムの仕様案作成
 - ・職員向け研修の開催



(3)取組の特徴・ポイント

○従来の施設管理では、自治体ごとに収集する情報が異なっていたほか、施設を所管する部局ごとにも施設情報の書式が異なっていたが、今回、統一的な情報を収集・分析したことで、客観的な施設情報の共有ができた。これにより、施設の実態を自治体間で比較することができるようになり、公共施設の相互利用に向けた検討が可能になった。
 ○アンケート調査では、対象施設でイベントやグループを運営する主催者と、個人利用を中心とした利用者を対象に、施設の利用実態等を調査した。その結果、主催者、利用者ともに一定数が体育施設、文化施設等を広域的に利用していることが把握でき、広域利用のニーズを確認できた。
 ○相互利用における課題として、各自治体ごとに異なる料金体系や料金設定の取扱、予約・利用方法の調整、共通予約システムや共通管理システムの導入などについて整理及び考察することで、共同管理に向けて各市町で共通の認識を持つことができた。

(4)今後の展開

対象施設の多角的な現状分析を基に、広域連携による相互利用を実現するために必要となる項目を整理することで、現状の施設管理・運用の見直しにより、相互利用の実現は可能であり、またそれは、利用者、管理者双方にとって有益であることが確認できた。
 今後は本事業で整理した、施設情報の統一書式、自治体間の比較手法、施設整備の各段階で求められる検討課題を踏まえ、引き続き「中和・西和広域連携検討会」を定期的に開催し、まずは相互利用の実現を目指して検討していく。